【授業科目】臨床病態学特論　Advanced Clinical Pathology

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	4年次 後 期	選 択	1	15	講　義	なし	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	臨床病態学ⅠおよびⅡで履修した内容を総括するとともに、これらの講義で取り扱いできなかった内容についても講義する。各疾患において必要な検査項目、検査データとの関連を中心に総復習し、要点について説明することにより知識の整理を行い、総合的な理解を図ることを目的とする。さらに最新の医療現場で実践される診療に関するトピックス、最新の臨床検査についても紹介し、実社会において様々な状況にも対応できる能力も養う。これまでに履修した幅広く多くの専門基礎科目の知識を必要とするため、生化学、血液学、免疫学、微生物学、病理学、生理機能検査学など関連する科目を十分復習するとともに、臨床病態学ⅠおよびⅡ、病態解析診断学の内容をよく整理しておく必要がある。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出された課題・レポートにはコメントする事でフィードバックを行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	・各疾患における病態生理、症候などをまとめ、どのような検査所見に異常がみられるか説明できる ・治療によって検査所見がどのように推移するか説明できる。 ・実社会での臨床検査における様々な状況に対応できる能力を養うことができる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	これまでに履修した臨床病態学ⅠおよびⅡの教科書、プリント等を十分に見直し、疾患と臨床検査における結果について重要な内容をよくまとめること。また、教員から重要と言われる内容もよく復習すること(60分)。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　循環器疾患 第２回　呼吸器疾患 第３回　消化器疾患 第４回　腎泌尿器疾患、電解質および酸塩基平衡 第５回　内分泌疾患 第６回　糖尿病、代謝疾患 第７回　膠原病、自己免疫疾患、アレルギー疾患 第８回　神経筋疾患 全て山口
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 10％ 授業態度　　90％　学期末試験
教科書	適宜配付します。　　参考書等：病気がみえる シリーズ（メディックメディア）
学生への メッセージ	臨床病態学の総まとめの科目となる。疾患における病態学的特徴と検査データとの関連が十分理解できるよう知識をまとめてほしい。